

(2) 連携型個別指導計画について

「連携型個別指導計画」は在籍学級の担任教員と通級指導学級の担任教員が連携して作成する個別指導計画です。「短期個別指導計画」に比べて、在籍学級との情報交換がより丁寧に行えることが特長として挙げられます。

連携型個別指導計画	
小学校	年 氏名 児
在籍担任	通級指導担当
平成 年 月 日作成	記載者
◎指導目標（長期目標）	
在籍学級での目標	<p style="text-align: center;">◆在籍学級での目標</p> <p>学習目標の設定が、その児童・生徒にとって、適切であるか、通級指導学級と調整することができます。</p>
通級指導での目標	
(1) (2)	
◎短期目標と手だて、及び評価	
●在籍学級（期間： / ~ / ）	
短期目標	評 価
(1)	.
(2)	.
手だて	
(1)	.
(2)	
●通級指導（期間： / ~ / ）	
短期目標	評 価
(1)	
(2)	
(3)	
手だて	
(1)	.
(2)	
(3)	

児童・生徒の障害の様子から、学習目標をどう設定すればよいか、この「連携型個別指導計画」を基に、通級指導学級の先生に相談できるので安心です。保護者に説明して、理解を得ることもできました。「読み書きチェックリスト」と併せて使うことで、より連携を密にできました。

この「連携型個別指導計画」をツールとして活用することで、児童・生徒の様子について、在籍学級の先生と具体的な話ができました。在籍学級での長期目標を達成するために、短期目標をどのように設定すればよいか情報交換をすることができ、学習の手だてについても共通理解することができました。



在籍学級の担任

連 携



通級指導学級の担任

◆ソーシャルスキルの支援と読み書きの支援の関連性について

情緒障害等通級指導学級では、発達障害の児童・生徒のソーシャルスキルの習得に向けた指導の研究・開発は比較的活発に行われている一方で、読み書きに障害のある児童・生徒に対する指導内容・方法は、今後の実践研究の充実が期待されています。学校生活において児童・生徒を適時・適切に支援することは、児童・生徒の学習活動への意欲を向上させることにつながるとともに、自主的や積極的に学習に取り組む態度の育成にもつながります。

「短期個別指導計画」や「連携型個別指導計画」を基に児童・生徒の指導を行います。指導は、

- ◆指導における手だての工夫
- ◆指導成果の在籍学級への反映
- ◆指導の評価と児童・生徒の学習意欲の喚起の3点に留意して実施します。

◆指導における手だての工夫

(1) 様々な感覚に働きかける指導と支援

①視覚提示を取り入れた学習(視覚化)

- ◆読み書きに障害のある児童・生徒は、話を聞くだけ、あるいは文章を読むだけではその内容の理解が困難な場合があります。
- ◆その児童・生徒が視覚認知(形の識別や形の記憶、位置の記憶)を得意とする場合、指導内容を視覚化して提示することが効果的です。
例えば、特殊音節の読み方についてドットを使って視覚化して(「ねこ」=●●、「ねっこ」=●●●)、「ねこ(猫)」と「ねっこ(根っこ)」の発音の違いを学習する手だてが考えられます。
- ◆漢字の学習では、漢字のへんやつくりの部分に分けて「休」と「林」の違いについて学習したり、ある部分を隠した漢字を提示して隠れた部分を書いたりするなどの手だてが考えられます。このような手だてを講じることで、児童・生徒はある漢字と別の漢字の部分的な違いを分かりやすく理解することができます。
- ◆文章の読解では、文章の流れを“はじめ・なか・おわり”の三部構成で図式化したり、物語の場面を図にして登場人物の行動を時系列に視覚提示したりするなどの手だてが考えられます。このような手だてを講じることは、読み書きに障害がある児童・生徒の「短期の記憶」の弱さを補い、文章の場面と場面のつながりや内容の流れについて、視覚的に整理して確認することができます。
- ◆なお、聴覚記憶の良好な児童・生徒は、「林という漢字は、木と木でできています」などのように、漢字の形を言葉で表現して学習するなどの手だてが考えられます。

②動作を取り入れた学習(動作化)

- ◆動作化は、身体を動かしたり、物を操作したりすることで、学習内容の理解を高めることです。
- ◆例えば、特殊音節の読み方について、視覚化されたドットに従って手拍子を打つ方法があります(「ねっこ」=●●●=●手を打つ、●手を握る、●手を打つ)。また、物語文中の登場人物の行動について、場面を絵図にしてその上で登場人物の挿絵をカードや紙人形にしたものを操作することで、話の流れや場面の移り変わりの理解を高めることができます。このようにして、動作を取り入れた学習は、視覚提示を取り入れた学習と組み合わせて行うことで、効果的になります。

(2) 教材等の工夫

- ◆文章の流れを分かりやすく整理したワークシートや、板書と連動したワークシートを用意することで、読み書きに障害のある児童・生徒の理解を高めることができます。特殊音節を含む単語の単語カード帳などを用意すると、家庭学習の支援にもつながります。
- ◆また、歌やゲーム的な活動を取り入れることも工夫の一つです。特殊音節を含んだ単語で作った詩を歌にして繰り返し歌うことで、児童・生徒が楽しく反復的な学習に取り組むことができるため、学習内容がより定着することが期待できます。覚えた漢字をカルタにするなど、ゲーム的な活動を学習に取り入れることで、児童・生徒の学習への意欲を高めることができます。

◆指導成果の在籍学級への反映

通級指導学級による在籍学級における指導の支援

- ◆通級指導学級と在籍学級の緊密な連携を図る上では、通級指導学級の教員が、読み書きに障害のある児童・生徒の指導方法に関する情報を在籍学級の教員に適切に提供していくことが重要となります。
- ◆通級指導学級の教員は、児童・生徒の実態把握の方法や指導の手だての組み立て方等について、あらゆる機会を活用して説明し、共通理解を図ります。児童・生徒の障害特性の理解や児童・生徒に応じた指導の手だてをはじめ、配布する教材プリント等を拡大して印刷することや、板書の文字の大きさに関することまで、在籍学級の教員が参考にできることを具体的に説明します。

6

個別指導計画の評価

- ◆連携の方法として、日々の学習の様子を連絡帳等で伝えることが挙げられます。その際、通級指導学級の担任は、在籍学級の学級便りの提供を受けるなどして、在籍学級における学習内容を把握します。
- ◆在籍学級での学習内容を把握しておくことは、児童・生徒が通級指導学級で学習したことを生かしていく上で重要です。例えば、通級指導学級で学習した内容を在籍学級の授業における発問等に取り入れることで児童・生徒に正答を促し、児童・生徒の学習意欲を高めることができます。児童・生徒が通級指導学級で書いた作文を在籍学級の担任教員が褒めることで、書くことに負担感を感じていた児童・生徒が在籍学級でも作文に意欲的に取り組めるようになった事例もあります。通級指導学級の教員と在籍学級の教員が連携を深めることで、児童・生徒が主たる学校生活の場である在籍校で力を発揮できるようになります。
- ◆連絡帳等の交換以外にも電話で情報交換をしたり、在籍校訪問や校内委員会への出席等、在籍学級の担任教員と通級指導学級の担当教員が直接に会う機会を活用したりするなど、様々な連携の形態を適切に取ることが大切です。
- ◆情報交換の機会に「短期個別指導計画」や「連携型個別指導計画」を活用し、通級指導学級の担当教員と在籍学級の担任教員が連携して児童・生徒の学習指導の計画を作成します。
- ◆また、保護者が通級指導学級に児童・生徒を送迎する際や、個別面談の機会等を活用して、通級指導学級での学習活動や児童・生徒の様子を保護者に伝え、理解と協力を得るとともに、在籍学級での学習活動への支援につなげます。

◆指導の記録、評価と児童・生徒の学習意欲の喚起

- ◆指導を実施したら速やかに指導の結果を記録します。「MIM」や「読み書き支援プログラム」を活用した場合、指導の結果は正答数として具体的に把握できます。この結果を基に手だてが有効であったか評価し、教材の工夫・改善に生かします。
- ◆自分の学習目標を理解して学習に取り組むことができる児童・生徒がいます。このような児童・生徒は、通級指導学級の教員と学習目標や学習内容を共有することができます。通級指導学級の教員は、例えば学習した漢字を習得できたかななどを、児童・生徒自身に確認させて学習の振り返り用紙等へ書き込ませたりするなどの手だてを講じることができます。このような手だてを講じることで、児童・生徒が学習の成果を自己評価し、学習に対する意欲を更に高めることができます。

「短期個別指導計画」や「連携型個別指導計画」に基づき、あらかじめ設定した指導期間の指導が終了したら、適切な評価を行い、次の目標に向けて計画を更新します。

◆評価

- ◆「短期個別指導計画」や「連携型個別指導計画」を基に、設定した指導期間内での目標達成がなされたかを評価します。
- ◆設定された具体的な指導目標を基に、客観的な評価を行います。
- ◆通級指導学級での評価結果を在籍学級の担任教員に説明します。その際に、在籍学級での学習の様子も聞き取ります。「連携型個別指導計画」を活用した場合には、在籍学級の担任教員も設定期間における評価を行います。

◆個別指導計画の更新へ

- ◆「読み書きチェックリスト」等で、改めて対象児童・生徒の実態把握を行います。
- ◆「MIM-PM」や「読み書き支援プログラム」等のアセスメントを行います。
- ◆その結果を基に、「短期個別指導計画」や「連携型個別指導計画」を更新します。

